

平成30年度倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

- 1 日 時 平成30年9月26日（水）10時00分～11時00分
- 2 場 所 倉吉市役所大会議室（本庁舎3階）
- 3 出席者
 - (1) 出席委員17名
※欠席委員1名（名越委員）
 - (2) 事務局3名（倉吉市企画課 内川課長、石賀室長、成瀬主事）
 - (3) 構成町主管課5名（三朝町企画課 青木課長、湯梨浜町企画課 上井課長、西川課長補佐、琴浦町企画情報課 藤本課長、北栄町企画財政課 小澤課長
 - (4) オブザーバー（鳥取中部ふるさと広域連合中部創生課 造酒課長）

4 会議の概要

会議次第に基づき、定住自立圏共生ビジョンの概要について再確認し、新会長・副会長を選任し、関係事業の取組状況の報告について、ご意見をいただいた。

5 会議の内容

1 開会	
内川課長	<p>(開会)</p> <p>皆様。本日は大変お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、只今から平成30年度倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会させていただきます。</p> <p>(訂正・修正)</p> <p>本日、会場に入られる際に配席図をお配り致しましたが、2点訂正をさせていただきます。ご欠席の方ということで牧野委員様のお名前を記載しておりますが、本日まで出席いただいておりますので、訂正をさせていただきます。</p> <p>また、配席図と併せまして、資料4ということで、1p～4pについて赤字で記載しておりますが、広域連合との連携について緊急医療体制の充実の項目の中で、表現に誤りがございました。そちらを赤字で修正させていただいたものをお配り致しましたので、確認いただければと思います。</p> <p>それでは改めまして、会の方に入らせていただきますが、委員様の自己紹介に入る前に、前回の懇談会から間隔が空いておりますし、この度新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、ここで一度、定住自立圏構想とビジョン懇談会の概要について事務局の方から説明させていただいてから、本題へ入らせていただければと思います。それでは事務局から説明を致します。</p>
石賀室長	<p>事務局をしております、倉吉市企画課の石賀と申します。定住自立圏構想とは、総務省が平成20年頃、市町村合併がある程度落ち着いた段階で、中規模あるい</p>

	<p>は小規模の市町村も残っている中で、周辺圏域で連携しながら、効率的に事務を進めていく組織が必要でないかという議論がありまして、倉吉市につきましては、中心市宣言という形で平成 21 年にさせていただきまして、翌年平成 22 年に周辺 4 町と、この時には、倉吉市と三朝町、倉吉市と湯梨浜町という 1 対 1 の形で協定を結んでおります。1 市 4 町として圏域で、共生ビジョンを平成 23 年に策定しました。</p> <p>昨今、皆様もご承知の通り人口減少が進んでおります。地方から都市圏に、特に若者が移っているというところで、その人口減少を食い止めるという意味でも、定住自立圏で、誰もが地方で暮らしやすく、それぞれのライフステージ・ライフスタイルに合わせて、暮らしを実現していくという目的のものであります。今、平成 27 年 3 月に第 2 次ビジョンということで策定をして、現在医療や福祉、産業分野等、10 の分野にわたり、15 の協定に基づき、様々な事業について、連携して取り組んでいるところでございます。</p> <p>一方で、中部圏域には、鳥取中部ふるさと広域連合という組織があります。これは、独立した地方公共団体で、そこで権限をもって、消防やゴミ処理等を、広域で取り組むべき事業に取り組んでおります。一方で定住自立圏は 1 市 4 町でそれぞれ権限をもちながら、それぞれの自治体同士で連携をして事業に取り組んでいくというところで、広域連合とはまた少し違う組織ですが、1 市 4 町が広域連合とも連携をはかりながら、進めているものです。</p> <p>また、先ほど申し上げました第 2 次ビジョンですが、平成 31 年度までが第 2 次ビジョンの期間となっており、平成 30 年度は 4 年目にあたります。来年にはこのビジョンの見直しをしていく予定となっておりますので、そちらもご理解をいただきながら今年、来年と委員の皆様にはご協力いただければと思っております。宜しく申し上げます。以上です。</p>
<p>2 委員の自己紹介（資料 1）</p>	
<p>内川課長</p>	<p>それでは、会議次第の「2 委員の自己紹介」に入らせていただきます。本年度に入り、委員の改選がありましたので、まずはそれぞれ委員の方々から一言ずつ自己紹介をいただけたらと思います。</p> <p>（委員名簿順に自己紹介）</p>
<p>3 会長・副会長の選任</p>	
<p>内川課長</p>	<p>皆様ありがとうございました。続きまして、会議次第の「3 会長・副会長の選任」に入らせていただきます。会長及び副会長の選出につきましては、本懇談会の設置要綱第 5 条第 1 項の規定により、懇談会に会長及び副会長をそれぞれ 1 名置き、委員の互選によりこれを定めることとなっております。会長及び副会長の選出をお願いしたいと思いますが、どのように選出致しましょうか。</p> <p>（事務局一任の声）</p>

	<p>只今、事務局一任という声がありましたが、事務局一任ということによろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>そういたしますと、事務局より、会長及び副会長の選任につきまして、提案させていただきます。本懇談会の会長として、前回の懇談会から引き続きまして、学校法人藤田学院の山田委員様、副会長として、倉吉商工会議所の佐々木委員様にご就任をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>ご承認いただき、ありがとうございます。それでは、山田会長様と佐々木副会長様におかれましては、大変お忙しいこととは存じますが、何とぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。それでは早速ではございますが、山田新会長より、一言ごあいさつを頂戴出来ればと思います。</p>
<p>4 新会長あいさつ</p>	
<p>山田会長</p>	<p>会長を務めさせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。私はこの定住自立圏では1年目からずっと関わらせていただいております。1次、2次ビジョンの策定の際にも関わらせていただきました。先程事務局からもありましたが、1市4町が連携しながら、この地域をより魅力のあるものにして、より多くの方がここに住むという、そんな計画を作ってやっていこうというものです。</p> <p>皆様のお手元に、共生ビジョンの少し分厚い冊子がありますが、そのサブタイトルに、「絆と自立、癒しと活力を育む圏域」と書いてあります。これは、それぞれが自立しながらも絆を深め連携し、そして癒しと活力のある地域を作っていこう、ということを行っているのではないのでしょうか。そうした中で、定住自立圏ではいろんな事業に取り組んでいるところです。</p> <p>ただ、総務省の支援を受けて行う形ということで、なんでもかんでもここでやっていく訳にはいかず、そうしたことにも気を付けなければいけないというのがあります。第2次ビジョンが平成27年から始まり、今年が4年目で、来年度最終年度ということで、今日の懇談会では、4年経ってどれくらい進捗しているかというところを見ていただき、皆様から、ご意見やご提案を頂戴できればと思います。出来れば、平成32年の3次ビジョンに向け、何かしら資産となるような提案が出れば良いなと考えておりますが、とりあえず進捗をチェックして、今やっていることが円滑にいくように、というのが狙いでございます。</p> <p>1時間という限られた時間ですので、効率的に、実りのある会にしたいと思います。宜しくお願いします。</p>
<p>内川課長</p>	<p>(事務連絡)</p> <p>ありがとうございました。それでは、会議に入らせていただきたいと思います。その前に事務局から会議の事務連絡として2点ご連絡申し上げます。</p> <p>まず、1点目として、会議の成立要件についてですが、本日の出席は委員18</p>

	<p>名中 17 名でございます。よって、本懇談会の設置要綱第 6 条第 2 項の開催要件であります委員の過半数の出席を満たしておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>次に、本日の日程でございますが、会議次第に基づき、報告事項へと移ってまいります。会議は概ね 1 時間 00 分程度を予定しておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、設置要綱第 6 条第 1 項の規定により、ここからの進行を山田会長様をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>5 報告事項</p> <p>(1) 掲載事業の平成29年度決算額及び平成30年度予算額について（資料 2）</p> <p>(2) 掲載事業の平成 29 年度取組成果について（資料 3・4）</p>	
山田会長	<p>それでは、お手元の次第にありますように、掲載事業の平成 29 年度決算額及び平成 30 年度予算額について、それから平成 29 年度取組成果について事務局の方から説明をお願いします。</p>
成瀬主事	<p>それでは、説明をさせていただきます。事務局の担当をしております、企画課の成瀬と申します。宜しくお願ひいたします。</p> <p>私の方からは、報告事項ということで、平成 29 年度の各事業の決算及び平成 30 年度の各事業の予算額についてご説明させていただき、その後、各政策分野で設定されている取組指標について、平成 29 年度取組成果をご説明させていただきます。</p> <p>まず、平成 29 年度決算額及び平成 30 年度予算額についてご説明いたします。お手元の資料のうち、資料番号 2 の資料をご覧ください。政策分野ごとの事業別に、左側の赤枠の中に、圏域全体での平成 29 年度決算額を、右側の赤枠の欄に平成 30 年度予算額を記載しております。平成 29 年度は、平成 27 年度より始まった第 2 次共生ビジョンの 3 年目となります。政策分野では医療、福祉等の 10 の分野で、15 の協定項目に基づき、38 の事業を実施しました。</p> <p>平成 29 年度は、圏域全体の総額で 463,260 千円の予算額に対し、453,438 千円の事業費を執行致しました。また、平成 30 年度は、圏域全体の総額として 273,451 千円の予算を計上しております。</p> <p>個別の執行額の説明については、時間の都合上割愛させていただきますが、主なものと致しまして、まず、医療の政策分野で、緊急医療体制の充実に係る協定項目のうち、中部休日急患診療所等の運営に平成 29 年度は 13,784 千</p>

円を執行しております。また、病院群輪番制病院運営事業に 8,454 千円を執行しております。これらは、鳥取中部ふるさと広域連合が、圏域の住民が適切な救急医療を受けることができるようにするための救急医療体制の運営や施設整備等に要する費用を 1 市 4 町で負担するものです。

また、平成 30 年度予算につきましては、休日急患診療所運営事業 21,316 千円を計上しており、昨年度から 7,532 千円の増額となっています。また、病院群輪番制病院運営事業については、8,738 千円で昨年度から 284 千円の増額となっております。

これについては、圏域内における救急医療体制を維持していくために、圏域内の病院での医療機材の購入があり、増額となっています。

次に福祉の分野では、子育て支援体制の整備及び充実に係る協定項目のうち、病児・病後児保育事業として 16,125 千円を執行しております。これは、病児保育を社会福祉法人敬仁会に、病後児保育を医療法人十字会にそれぞれ委託して実施しているもので、運営経費の一部を負担しております。平成 30 年度予算についても、ほぼ同規模の 16,912 千円を計上しております。

また、休日保育の活用事業については、平成 29 年度は予算額 1,644 千円に対し決算額が 245 千円となっております。予算額に対して決算額が少ない要因として、休日保育の利用者数が昨年度に比べ少なかったことが考えられます。取組成果についてはまた後ほどご説明いたします。

次に、教育の分野では、体育施設の機能の維持及び強化に係る協定項目のうち、倉吉市宮陸上競技場維持管理事業として平成 29 年度は 213,185 千円を執行しております。主に、鳥取中部地震による被害の復旧工事・上部排水路改修工事費等が含まれています。

平成 30 年度当初予算については、平成 29 年 9 月末に、地震からの復旧工事が完成したため、0 円となっております。また、9 月補正予算として、陸上競技場インフィールド改修基本設計に係る費用を計上予定です。

次に、産業振興の分野では、広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進に係る協定項目のうち、観光商品の開発強化・受入体制の充実等による観光推進事業として 92,909 千円を執行しております。

平成 29 年度は、関金温泉開湯 1300 年祭事業や、各市町の観光協会補助金の増額等で平成 28 年度から 21,264 千円の増額となっております。

平成 30 年度は 105,096 千円を計上しております。各市町の観光協会への補助金の増額や、市町のウォーキングコースの整備等で昨年度から 12,187 千円の増額となっております。

続きまして2枚目をご覧ください。

地域公共交通の分野では、公共交通に係る効率的な運行体系の確立に係る協定項目のうち、鳥取県中部地域公共交通総合連携計画事業として、平成29年度決算で、7,052千円を執行しております。バス停の修繕費用等がここに含まれます。

次に地産地消の分野では、地産地消拡大事業として、19,200千円を執行しております。例年、1市4町合同で開催している、「食のみやこフェスティバル」の運営経費や、各市町で行われている地産地消に関するイベントの運営経費が含まれています。平成28年度から、932千円の増額となっております。

今年度も同程度の19,725千円を計上しております。

その他、各事業の詳細につきましては、資料4の進捗管理シートにまとめていただいておりますので、ご確認下さい。平成29年度決算額及び平成30年度予算額についての説明は以上です。

続きまして、平成29年度の各事業の取組の成果についてご説明いたします。お手元の資料番号3の資料をご覧ください。

各協定項目に係る取組指標と実績について、記載しております。表の左側の赤枠の欄に、平成29年度の目標値と実績値を記載しております。目標を達成できているものについては水色で、目標を達成できていないものは黄色で、また特に著しく達成できていないものはピンクで表示しております。

主なものにつきましては、まず、医療の分野におきましては、初期救急医療施設（休日急患診療所、小児・歯科休日急患診療所）の利用者数については目標に達しています。二次救急医療施設（病院群輪番制病院）の利用者数は実績については目標を下回ってはいるものの、目標とほぼ同水準となっており、夜間・休日の適正受診の周知が図られているものと考えます。

次に、福祉の分野では、認知症に係る支援体制の整備として、早期発見の取組達成率を指標としております。タッチパネル検診の受診者数は3,028人と平成28年度から133人増となりました。指標についても8.82%と目標を達成しています。

一方、中部成年後見支援センターへの相談件数については、センターが開

設された平成 25 年以降、相談件数は年々減少傾向にあり、平成 29 年度は 125 件と目標を大きく下回る結果となっています。これについては、センターが開設された当初は各市町に来た相談を全てセンターに回していたものを、近年は市町の職員の能力向上により、センターに回すことなく基本的な相談を各市町で受けることができていることも要因の 1 つとして考えられます。しかしながら、今後、認知症患者が増加していくなかで、相談内容の複雑化・多様化が考えられ、より一層、制度の周知を図っていくことが必要だとも考えています。

次に、病児・病後児保育の利用者数については、平成 28 年度から、68 人増で 732 人となり目標を達成しております。

その一方で、休日保育の利用者については、129 人で昨年度から大きく下がっております。備考欄にも記載しておりますが、事業の性質上、その時々利用者の勤務形態や状況の変化によって年度ごとに大きく変化することが要因として考えられます。しかしながら、子育て支援のセーフティネットとして必要な事業であり、今後も継続実施していくものです。

次に、教育の分野に関して、不登校児童・生徒のセンター利用率については、53.0%となっており、やや目標を下回る結果となりました。また、学校復帰率については、16.3%と前年度より 7.2%減少し、目標を大きく下回る結果となっております。

表面的な働きかけでは対応が難しくなっていることや、家庭環境の複雑化や、家庭への立ち入りが困難になりつつあるといった社会的背景の変化も要因としてあり、不登校児童・生徒が増加傾向にあるなかで、県下全小中学校での協議会等での情報交換や、中部圏域での研修会等の取組を行っていますが、指標としては目標が達成できていないのが現状です。

次に、体育施設の機能の維持及び強化に係る指標として市営陸上競技場の公認大会開催数及び利用者数については、鳥取中部地震からの復旧工事により上半期が利用出来なかったこともあり、達成できておりません。しかしながら、昨年 9 月末に復旧工事が完了し、そのタイミングに合わせて、トップアスリートを招致してのスポーツ教室を開催する等、利用者回復に向けての取組をしているところでございます。

次に産業振興分野の企業誘致の推進の協定項目に係る取組についてです。2 ページ目をご覧ください。

平成 29 年度の企業誘致件数は 0 件となっており、企業訪問や補助制度の P

Rを行ってはきているものの、数字としては伸び悩んでいます。しかしながら、今年度、倉吉市内で操業を開始した企業が1社ありまして、来年の実績報告の際に改めて報告致します。

新規正規雇用者数については、平成29年度は17名となっており、目標をやや下回りました。平成28年度に、誘致企業が前倒しで雇用計画を進めたこと、既存企業においても、規模拡大が行われたことから、雇用の増加につながり、実績は66人で目標を達成していましたが、平成29年度はそれがやや落ち着いてきたということが考えられます。

次に、雇用創出奨励制度は、事業所等を新設した企業で、新規正規雇用を行った企業に対し、奨励金を交付する制度でH27年度より創設、運営を開始しました。平成29年度は2社16名に対して交付致しました。各町の内訳は備考欄に記載しております。目標値を下回っていますが、昨年度より6名増加となっております。

次に、地域公共交通の分野の、公共交通に係る効率的な運行体系の確立の協定項目に係る取組についてです。路線バス等の維持に係る市町村補助金の合計額が、平成29年度は235,355千円となり、平成28年度から16,469千円増となっております。また、輸送量についても、平成29年度実績が959,953人で平成28年度から19,955人減となっております。中部圏域全体で、利用者数が減少傾向にあり、それに伴い、補助金も増加しているというのが現状です。その中で、今年度7月に、「高齢者運転免許自主返納支援制度」を創設し、バス定期券もしくはタクシー乗車券いずれかの購入費に対し補助を行ったり、9月20日にはバスの日ということで、倉吉駅前バス利用を促す声掛け運動を行ったりと、バスやタクシーの利用を促す取組を推進しております。

次に、交流・移住の分野では、空き家バンクの連携等による移住促進の取組についてですが、平成29年度は492人(昨年度比+24人)の圏域への移住があり、目標を達成しています。特に、近畿地方、中国地方、関東地方からの移住者が多い傾向にあり、各市町で行われている田舎暮らし体験ツアーや都市圏で開催される移住相談会への参加等、各事業の取組の成果が現れているものと考えます。

また、未婚・晩婚化の解消への取組推進として、鳥取中部ふるさと広域連合による圏域全体を対象とした広域連携婚活事業に取り組んでいます。

平成29年度の新たな試みとしては、カップリングを行わないイベントを開催し、参加者のメンタル面での負担軽減を図り、比較的ゆるく参加しやすい婚活イベント、セミナーを開催しました。イベント中の参加者同士の成婚組数は0でしたが、事後調査により、カップル1組の成立が確認できました。

	<p>しかしながら、カップル成立後の経過を把握しきれていないという状況もあり、今後は前年度イベントの参加者に対してのアンケート調査を行い、成婚組数及びカップル成立数を把握したり、婚活イベントのカップル成立者に対してのアフターフォローをしたり等、成婚に結び付く取組をしていきたいと考えております。</p> <p>以上、取組成果の主なものを説明させていただきました。その他の項目につきましては、資料4進捗管理シートと合わせてご確認をお願い致します。私からの説明は以上です。</p>
石賀室長	<p>補足です。指標の設定でございますが、第2次ビジョンからこの指標を設定するようになっております。これは全国的な動きで、総務省からの指示というところで2次ビジョンから設定し取り組んでいるものです。</p> <p>ただ、皆様も違和感を覚えられる指標がいくつかあったかと思います。例えば、初期救急医療施設の利用者数ということで、昨年も板垣委員さんからもご指摘ご意見をいただきましたが、救急搬送する数が増えればいいのか、ということがありまして、果たして、指標としてふさわしいのかというところがございます。</p> <p>また、保育の分野で休日保育がありますが、制度の周知をして利用しやすい環境を作るということも大事ですが、基本的にはお休みの日には、子どもの面倒を見られるのが、あるべき姿、ふさわしい姿かなという考え方もありまして、目標を達成してないということで、これも指標としてどうかという部分もあります。</p> <p>次に、2枚目の公共交通の部分ですが、補助金の話をさせていただきましたけれども、補助金の負担が減った方がもちろん良いので、28年度は目標を下回っていたので目標達成としておりまして、29年度は目標を上回ったために、目標未達成としております。</p> <p>来年度にはビジョンの見直しということになりますので、これらの指標についても改めて見直しをしていきたいと思っております。ただし、今年度、来年度につきましては、この指標の設定がされていますので、このままでいかせていただき、3次ビジョンでの見直しということでさせていただければと思います。以上です。</p>
山田会長	<p>事務局からは以上ですね。それでは委員の皆様から、意見なり、ご質問なりあればお願いいたします。</p>
藤原委員	<p>資料を見させていただいたところですが、JAは農業分野ということで、それに関して少し意見を述べさせていただきます。</p> <p>定住自立圏については、農業分野が少ないという印象をもっています。関わりがあるのが地産地消分野の事業だけということになりますが、まず、資料3の取組指標で「圏域内にある直売所の販売額」が、JAの数字だけというのはいかがなものかというところを少し感じています。地産地消はJAだけでなく、地域全</p>

	<p>体も巻き込んだ話ではないかと考えています。その辺りも考えて目標設定をしていただけたらというところです。</p> <p>次に、食のみやこフェスティバルですが、これは膨大な目標を設定していると感じています。実態としては、ここ3年間くらいは25,000人を目標にやってきましたが、平成30年度は27,500人の参加がありました。これだけの来場者を見た時、個人としても実行委員会としても、こんなに来ていただいた、よくやったという思いだった。そうした中で、ビジョンの中の目標でいくと、37,000人。ここまで出来ればもちろん良いが、実態はそうではないということは理解していただきたいと思います。</p> <p>最後に、人材の育成、確保ですが、この人材というのはどの分野にも関わってくるのだと思います。この指標では、研修会に参加された、市町の職員の人数を指標としていますが、ここから先が欲しいな、というのが私の考えです。分野毎に、どんな人材が圏域に移ってきているのか。例えば、農業なら担い手、県外からの移住者等。そこまで掘り下げて、指標や目標を考えてみてはどうでしょうか。</p>
山田会長	<p>今のご意見に関して、事務局から何かありますか。</p>
石賀室長	<p>この協定項目は、地産地消ということで倉吉市と三朝町、倉吉市と湯梨浜町という形で、協定を結んでおります。その中で、広域で取り組む事業について、定住自立圏の枠の中で、連携して取り組んでいこうということで、この事業が挙がっております。当然、今あるもの以外にも、連携して出来ることがあれば、委員様の方からご意見を頂ければ、第3次ビジョンに向けて検討していきたいと考えております。</p> <p>それから、目標については平成27年3月にこの目標を会の中で話し合っ、その前段には1市4町で各部会を設けて、こういう目標を決めております。今、実態を聞かせていただきましたので、なるべく実態に近い所での目標設定を、次のビジョンでは心掛けていきたいと考えておりますので、その際には、またご意見をいただければと思います。</p> <p>次に、人材の育成についてですが、1市4町個別でも当然、接遇研修や交通安全に関する研修等、研修会をしておりますが、例えば、保育の分野のような専門的などころでは合同で研修をした方がより、お金を出し合っ、謝金の高い方を呼べる部分等もあり、そうしたところで、合同職員研修会ということで協定を結んで取り組んでいるところでございます。また、以前は県も含めて、中部での連絡会や研修もしていたのですが、最近はその辺りが薄れている部分がありますので、有効に取り組めるものについては、検討していければと思います。</p> <p>最後ですが、1番最後に挙がっている人事交流の人数という指標について斜線を引いております。昨年度の懇談会で整理をさせていただいた部分で、倉吉市、北栄町、琴浦町で人事交流の協定を結んでおります。これは、必ず交流するとい</p>

	うものではなく、必要に応じて人事交流をしていこうというもので、目標を掲げるのも難しいということで、指標を設定しておりません。実態としては、人事交流がないというところです。
山田会長	他にはありませんか。
加藤委員	<p>福祉の部分について、定住自立圏でやっていることですが、毎回、子育て支援の整備が話に出ます。</p> <p>休日保育の利用についてですが、親御さんが子どもさんの面倒を見るということをおっしゃいましたが、最近は土日働いている方もおられ、より一層、受入体制というものを整備していただきたい、という思いがあります。</p> <p>この進捗管理シートに書いてあるものの中では、倉吉の上井にあるババール園で受け入れをされているということで、本当の意味で受入体制を整備していただきたいところがございます。指標としては人数ではなくて、体制が整備出来ているかを見ていくべきだと思います。</p> <p>併せて、病児・病後児保育の関係についても、勤めをしながら子育てしていくのに、病児・病後児保育は非常に重要ですので、こちらも整備していただきたいです。</p> <p>他の会議でも、子育てしやすい環境でないと定住できないとの話題がいつも出ますので、そうしたところの整備をお願いします。</p>
寺谷委員	<p>私個人として考えておりますのが、倉吉市さんは子育て支援に非常に頑張って取り組んでいただいているというところです。子どもも保護者もとても喜んでいただいている現状が確かにあると思います。ただ、先ほどもありましたが、土日に保護者が保育をする際、もちろん保育園の場合は土曜日保育等利用いただいておりますが、家庭で面倒を見ていただく際に、雨の日に行く場所がない、という声は非常に多い印象を持っております。</p> <p>子ども達は走りたがりますし、未来中心にも大きな公園があつて、いつも満員だなと思って見させていただいておりますが、やはり雨の日の遊び場がないかな、と思うところです。その辺りをもう少し整備していただくとありがたいという声は保護者の中から伺っております。</p>
山田会長	事務局からは何かありますか。
石賀室長	<p>先程の私の言い方が悪かったかもしれませんが、ライフスタイルが多様化しているというのはもちろんあります。そうした中で、子育て支援については、全国的に見ても先駆けて取り組んでいるところでもあります。</p> <p>平成 25 年頃、内閣府が全国の子育ての良い取組として事例を 30 ほど取り挙げておりまして、倉吉もその中に入っておりました。その報告書のまとめのなかでも、全国の中で 3 つの事例紹介があり、倉吉市は切れ目のない子育て支援ということで、取り挙げていただきました。</p>

	<p>全国の会議にも参加させて頂き、倉吉の取組をご報告させていただいているところです。1市4町で子育て支援については手厚く取り組んでいるところがございます。東部や西部に比べても非常に充実していると自負しているところです。</p> <p>また、先ほどありました雨の日の設備について、他にも例えば、広い芝生で遊ばせる場所がないことや、近所で通いやすい公園がないだろうかということで住民からの声があります。その辺りも子どもに関係する福祉の担当部所だけでなく、都市計画整備、倉吉市では管理計画課ですが、そうした部所も併せて、児童公園のような施設を考えていく必要はあるかなと考えています。</p> <p>また、雨の日でも楽しめるような遊び、例えば昔の遊びにもいろいろなものがあるかなとも思いますので、そうしたことも、保護者の皆様にお伝えできるようなことも考えていければいいのではないかと考えています。</p>
山田会長	他には。
藤井委員	<p>資料3ですが、移住の分野は実績があるなと感じました。これは倉吉市が全国でも、高齢者にとっても住みやすい町No.1が何年か続いたというものではないかなと感じました。また、このたくさんの方々の分野がある中で、企業誘致や正規雇用が少ないということも感じました。</p> <p>圏域外の例になりますが、今、大山町で発達障がい者向け施設を作っています。これは空き家バンクを活用して起業する場合に補助金が交付されるという制度を利用したのですが、そうした制度をもっと整備していった方が良いのではないかと考えています。それによって移住も増える、雇用も増えるということもありますし、倉吉市内でも、起業される方は年間20名程おられるというところで、そうした方たちのためにも、もっと整備していった方が良いと考えています。</p> <p>もう1点ですが、中部成年後見センターについて、後見センターの役割は相談業務だけでしょうか。例えば、社協が成年後見に関する講座を作っていますが、認知症のことだけでなく、独居老人や、最近私の住んでいる地域でも孤独死が増えているというような中で、いわゆる認知症以外の高齢者の方も成年後見制度を必要とされる方は多いです。2025年問題等、何年かすると後期高齢者が増えていく状態で、福祉関係機関・団体とセンターの連携をもっと詰めていけたらいいのではないかと感じています。</p>
石賀室長	<p>ありがとうございます。定住自立圏は1市4町の枠で取り組んでいますが、関係団体との連携も取らせていただきたいところです。</p> <p>当然、必要なものについては委託という形をとっておりますが、社協さん以外にもNPO法人や、これから地域包括ケアシステムが動き出すということもあります。認知症の若年性認知症の方の専用デイサービスセンター設置運営事業ということで、協定項目に基づいて取り組んでいますが、既に各地での取組としてオレンジカフェやにっこの会等、相談業務以外にも、対象者の方ご家族の方含めて、気軽に立ち寄って一緒に話をする場を設けています。こういった取組もPRして</p>

	<p>広げていけたらと考えています。</p>
中森委員	<p>中部子ども支援センターの指標で2つ目に学校復帰率がありますが、指標は平成32年から変更となるかもしれないというところですが、復帰児童について目標設定してしまうと、学校に復帰させようというインセンティブが働いてしまうと思います。文部科学省でも、問題自体は不登校にあるのではないということでは言われています。このところの指標を変え、関係者、団体がどれだけ関わったか、一人ひとりに対して支援体制が拡充していることが見える指標を取ったり出来るのではないかと考えています。</p>
山田会長	<p>これは、今後の検討課題ですね。事務局からは。</p>
石賀室長	<p>おっしゃる通りだと考えます。決して強制するものではないです。指標として今は、こういうものになっているということでご理解いただけたらと思います。今はいろいろなNPOも立ち上がっていきまして、不登校になった方ですとか、引きこもってしまう前に相談が出来る場所、居心地の良い場所、居場所作りということで取組みが進んでいます。中部でもハートフルスペースのような、必ずしも学校には行かないにしても、どこかに出掛けていき、その方にとっての居場所、安心できる場所の確保ということも進んでいるというところがございます。指標については見直しについて検討していきたいと考えております。</p>
山田会長	<p>その他には。出来れば広く、いろんな方にご意見をいただければ。はい、お願いします。</p>
福井恒委員	<p>移住定住の関係ですが、意見というか提案みたいなこととお話しさせていただきます。</p> <p>各市町におかれては、移住の促進に頑張ってください。倉吉だけの話だと、ここ5年間で1000人ということで、ビジョンの指標はクリアしていますね。ただ、現状の傾向としてUターンが少なく、Uターン者をどう獲得していくかということが重要かと考えます。そのために、中学、高校のうちに郷土愛というのをしっかり育まないといけないと思っています。</p> <p>提案というのは、圏域への移住者から、どういう活動や起業をしてきたのかということや、外から見た地域の魅力等を語っていただき、それを中学生や高校生が聞き、外から来た人が地域のことを愛してくれているということを共有する場所や機会を作るべきだと考えています。</p> <p>それがきっかけとなり、気付きや刺激になって、進学で外に出て行ってしまうもいずれは帰ってくるような流れが作れたら良いと思います。</p> <p>例えば、琴浦町で「今回は東京から倉吉市に移住された〇〇さんから話を聞きましょう」とか。今までにはなかったスタイルで。それぞれの市町でそういう場を設けているかもしれませんが、そこを超えて中部圏域で、そういう機会を共有していくべきではないでしょうか。さらに連携をして鳥取県の中部の魅力みたい</p>

	なものに触れる機会を中学生、高校生に伝えて共有する場所が欲しいですね。
山田会長	良いご提案を頂けたと思います。それでは、ほかにいかがでしょうか。藤井委員さんお願いします。
藤井委員	今年の4月から、福祉を取り巻く環境が大きく変わりました。 3月までは子ども、高齢者が話題の柱でしたが、4月からストーカーやDV、ひきこもり等も大きな話題となっております。 こうした流れもありますので、3次ビジョンには、子どもや高齢者に関する部分以外も盛り込んでいってはどうでしょうか、というご提案です。
山田会長	それでは、他の方はご意見ありませんか。 福井さんよろしいですか。松本さんはどうでしょう。布広さんいかがでしょう。山田さんも。ありませんかね。では、始めに言っておりました時間になりましたので、閉じさせていただきたいと思います。
6 その他	
山田会長	事務局の方から何かありますか。
内川課長	特には、ございません。
山田会長	委員の方から、このことだけは言っておきたいこと等ありますか。
7 閉会	
山田会長	今回出た意見や提案の中で、次の会に向けて受け止めさせていただくことや見直しがすぐできるものについてはしていくというところで、本日の会は終了といたします。ありがとうございました。